

「老いと介護と
演劇のチカラ」

2017年
5月28日
(日)

レクチャー&ワークショップ参加者募集

岡山県奈義町で活動する演劇ユニット「老いと演劇」"OiBokkeShi" (オイ・ボッケ・シ) 主宰の菅原直樹氏と、「介護」と「演劇のチカラ」について楽しく、そしてじっくり考える1日です。

俳優であり介護福祉士でもある菅原氏は、地域において「介護」と「演劇」を結びつけるユニークな活動を展開し、近年多方面から注目を集めています。今回は、その活動を紹介するレクチャーと、認知症ケアに演劇手法を活かした「老いと演劇のワークショップ」の2本立てでお贈りします。

演劇、介護経験は問いません。介護に携わる方、関心がある方、演劇や舞台芸術に興味のある方など、ぜひお気軽にご参加ください。

※この企画は、キラリふじみ・リージョナルカンパニー ACT-F メンバー対象の研修の一部を、一般公開して行うものです。

- 【進行】 菅原直樹 (OiBokkeShi 主宰)
【日にち】 2017年5月28日 (日)
【会場】 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ 展示・会議室
【申込期間】 4月2日 (日) ~ 5月20日 (土)
【申込方法】 裏面の申込用紙に必要事項を記入し、郵送、FAX、直接ご来館。またはオンライン申込みにてお申込みください。

1

レクチャー「“演劇”で“老い”の明るい未来を描くこと」

「俳優介護士」としての経験や、“OiBokkeShi”の活動をご紹介しますながら、介護現場での演劇の活用方法とその可能性についてお話しします。

- 【時間】 10:00 ~ 12:00
【定員】 40名程度 (応募者多数の場合は抽選)
【料金】 300円 (当日支払い) / ワークショップ受講の方は無料

2

ワークショップ「老いと演劇」

超高齢社会を生きるすべての人へ向けた「俳優のススメ」。
演劇は、コミュニケーションにより意識を向けることができるツールです。
そして、介護は、生活に意識的になることができるツールです。
認知症の方の言葉を否定するのではなく、演技で自然に受け止める。
認知症と介護の関係を、演劇で疑似体験することを通じて、他者との関係性を築くことについてあらためて考えてみ

- 【時間】 13:30 ~ 17:00
【対象】 小学5年生以上
【定員】 25名 (応募者多数の場合は抽選)
【料金】 1,000円 (当日支払い)

お申込みプログラム (ご希望のものに☑を入れてください)		☐①②両方		☐①レクチャー		☐②ワークショップ	
お名前	ふりがな	年齢	歳	性別	男・女		
	〒						
ご連絡先電話番号		メールアドレス					
応募のきっかけ・動機							

※ご提出いただいた応募書類は返却出来ませんのでご了承ください。 ※いただいた個人情報は本企画のために使用致します。
 ※今後キラリふじみの催し物のご案内をご希望の方にお送り致します。 ☐希望する ☐希望しない

きりとり

お申込み
お問い合わせ

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ
 〒354-0021 埼玉県富士見市大字鶴馬 1803-1
 TEL 049-268-7788 (9:00 ~ 22:00) / FAX 049-268-7780
<http://www.kirari-fujimi.com> (オンライン申込みあり)

[主催] 公益財団法人キラリ財団 [助成] 一般財団法人地域創造



「老いと演劇のワークショップ」

菅原 直樹 (すがわら なおき)
 1983年栃木県生まれ。奈義町アート・デザイン・ディレクター。「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰。俳優、介護福祉士。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。小劇場を中心に新進劇作家・演出家の作品に多数出演。2010年より特別養護老人ホームの介護職員として働く。2012年、岡山県に移住。介護と演劇の相性の良さを実感し、地域における介護と演劇の新しいあり方を模索している。その活動は、『よみちにひはくれない “若き俳優介護士” の挑戦』(制作：岡山放送)として、FNSドキュメンタリーにて特集されるなど、近年多方面から注目を集めている。

OiBokkeShi (オイ・ボッケ・シ)
 俳優で介護福祉士の菅原直樹を中心に、2014年に岡山県和気町にて設立。「老人介護の現場に演劇の知恵を、演劇の現場に老人介護の深みを」という理念のもと、介護現場・劇場などで創作上演、一般市民向けの演劇ワークショップ等を実施。演劇という、太古から営々と築き上げられた芸術活動によって、「老い」「ボケ」「死」の明るい未来をあぶり出し、地域社会の活性化を目指す。